

## 山口青邨ゆかりの地



この建物は、もと公民館南側の国道際に建てられてあったもので、俳人山口青邨（本名吉郎）が幼少時代を過した旧居（青邨の伯父笹間忠一氏宅）である。昭和五十一年に中央公民館建設の際、この場所に建物の一部を移設し「愛宕亭」と名づけた。

青邨は、明治二十五（一八九二）年盛岡市に生れ、この周辺が幼い頃の遊び場であったというゆかりの地でもある。

大正十一（一九二二）年高浜虚子に師事、その天分は忽ちにして頭角をあらわし、清純高雅な作風により、昭和四（一九二九）年ホトトギス同人となる。また同五年に盛岡から俳誌「夏草」が創刊されるや、これを主宰し多くの俳人を育てた。

庭園内には「遠山のくつがへるさま郭公鳴く」の句碑が昭和五十三年岩手夏草会により建てられている。

この愛宕亭は、一般の句会、歌会、茶会等の利用に供しておりますので、利用されたい方は本館事務室までお申し出ください。

（庭園内掲示板より）

